

地域社会との緊密な連携を築く

地域と協働するPTA活動

津島市立藤浪中学校PTA

1 はじめに

津島市は、愛知県の西部に位置し、名古屋市の都心部へは10キロメートル程の距離にあり、市域の中央を日光川が流れ、古くからの住宅街と田園地帯が混在している都市である。西部には、市を象徴する「津島神社」があり、疫病や厄除けの神様として全国から参拝者が訪れる。そのすぐ南の天王川公園は市民のオアシスであり、毎年7月には、日本三大川祭りに数えられる「尾張津島天王まつり」が開催される。開催日の夜、提灯を灯した5艘のまきわら船が水面に浮かぶ様子はまさに圧巻で、歴史的にも文化的にも大変価値のあるものである。

本校は、生徒382名、13学級（うち特別支援学級2学級）の中規模校で、地域と強くつながり、地域に愛され、地域と共に歩む学校である。また、教育目標として「自立」と「共生」を掲げ、知・徳・体の調和のとれた人間形成を図るとともに、公共の精神を貴び、自他の敬愛と協力により創造的で活力に満ちた社会の発展に尽くす生徒の育成を目指し、家庭や地域と連携し教育活動を進めている学校でもある。



【運動場から見た校舎】



【正面玄関のモザイク画】

2 研究への取組

(1) 研究のねらい

本校のPTAは、あいさつ運動や清掃活動、学校行事の運営協力等、積極的に学校支援を行ってきた。しかし、ここ数年のPTA活動は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、縮小・制限を余儀なくされた。また、年々生徒数・家庭数は減少傾向にある。

こうした状況を踏まえ、学校を支えるPTAとしてどのように活動を続けていけばよいか、日頃のPTA活動を見直し、今後のPTA活動につなげていきたいと考えた。

また、地域社会との緊密な連携を築き、学校、家庭、地域が連携・協

働して、子どもたちの健やかな成長に寄与することを願い、本研究を進めることとした。

(2) P T Aの組織と地域諸団体との関わり

常任委員13名（会長1、副会長2＜1名は地区委員長を兼ねる＞、庶務2、会計3、幹事1、参与1、地区副委員長1、顧問1、会計監査1）と学級委員11名、地区委員9名で構成されている。学級委員は、研修・給食部か広報・調査部のいずれかに所属し、地区委員は生活・安全部に所属し、活動を行っている。

本校は、令和4年度に学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を発足させた。現P T A会長は、学校運営協議会委員を務め、学校と地域との協議と活動をつなぐ役割を担っている。また、元P T A役員やP T A会員も学校運営協議会の委員として、活動に取り組んでいる。学校運営協議会委員には、民生児童委員や本校の学区にある小学校区コミュニティ推進協議会や小学校の地域学校協働本部などの会長や委員、職員が名を連ねており、学校支援の一翼を担っていただいている。

3 実践活動の概要

(1) 常任委員会の活動

年に6回開催される常任委員会では、P T A総会および各部会の企画と運営、学校行事や地域の行事への運営協力について活発に意見交換を行っている。

コロナ禍の中では、従来通りの学校行事を行うことができなかった。本年度は5月から新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたことにより、従来通りの学校祭を行うことができるよう、常任委員を中心に学校祭の運営協力について検討した。感染症対策をしつつ、文化祭での保護者席の譲り合いの呼びかけや交通整理など、さまざまな場面でP T A役員が学校祭の運営協力を行い、無事に学校祭を行うことができた。



【学校祭運営協力の様子】

(2) 各部会の活動

① 研修・給食部

年2回、講師を招いてさまざまな話題で講話を聞いたり、体験したりする研修会を行っている。

本年度は7月に研修会（食の講座）としてぬか床作りを通して食について考える研修を行った。ぬか漬の歴史や作り方、漬物の栄養について学ぶだけでなく、数種類の漬物の試食も行った。研修中、日頃

の食生活や子どもたちの家庭での様子について、参加者同士で楽しそうに話しながら取り組む姿が見られた。P T A会員の親睦を図り、食を通して子育て等について考えるよい機会となった。



【研修会（食の講座）の様子】

11月に、津島市の人権講座にあわせてP T A研修会を行った。津島市教育委員会特別支援教育相談員を講師に招き、思春期を迎えた子どもとの向き合い方について研修をした。

② 広報・調査部

積極的に取材活動を行い、8月、1月の年2回P T A新聞「藤浪かわら版」を発行している。各学校行事における子どもたちの活動や成長の様子を保護者や地域に伝えるとともに、教職員やP T A活動の紹介、部活動紹介を掲載するなど、工夫を凝らした紙面づくりに取り組んでいる。

また、調査活動として生徒や教職員、保護者を対象にアンケートを実施している。本年度は生徒を対象に「夏にやりたいことは何ですか？」や「好きなスポーツ選手は誰ですか？」といったやりたいことや好きなもののアンケートを行い、P T A新聞にアンケート結果を掲載した。



【藤浪かわら版 生徒アンケート】

P T A新聞に掲載されている学校行事の記事やアンケート結果は、家庭での話題づくりにも一役買っている。

③ 生活・安全部

藤浪中学校は、人と接する機会が極端に少なくなったコロナ禍の中で、「あいさつ日本一」をキャッチフレーズに、あいさつ運動に取り組んできた。生活・安全部も、その活動に協力し、生徒たちが少しでも元気よくあいさつをすることができるよう、定期的にあいさつ運動を行っている。



【あいさつ運動の様子】

夏休みの出校日には生活・安全部だけでなく、地区の少年補導員の方々にも協力していただき、あいさつ

運動を行っている。あいさつ運動は、地区の少年補導員の方々に生徒の学校生活の様子を見ていただくよい機会になっている。また、あいさつ運動後、生活・安全部と少年補導員の方々と地区委員会を開催している。地区委員会は生活・安全部の担当地区の危険箇所の情報交換を中心に、地域での交通事故の状況や不審者情報、思春期の子どもたちへの接し方についての情報交換の機会にもなっている。

(3) 地域諸団体との連携

① 学習支援活動

地域学校協働本部の学習支援教室『NAMIKKA』では、月曜日の放課後を中心に学習支援を行っている。参加生徒は自学自習の形態の中で、生徒同士が教え合ったり、学習支援ボランティアに気軽に質問したりしながら、学ぶことの楽しさを感じる学習に取り組んでいる。

② 地域の活動に中学生の力を生かす場の設定

地域の活動に中学生の力を生かしたいという呼びかけに応じ、中学生ボランティアの募集を行っている。本年度は地域学校協働本部を通して小学校区コミュニティが主催する秋のフェスティバルやクリスマス会への中学生ボランティア参加の呼びかけをした。それぞれのイベントの中で、中学生がボランティアとして参加し、地域の活動に中学生の力を生かすことができた。

(4) P T A活動の見直し

本年度当初より、常任委員会で、令和6年度からのP T A活動のあり方を検討してきた。無理なくP T A活動を続けられるだけでなく、今までのように子どもたちのために学校を支える活動ができるよう、各部会の活動内容を厳選したり、代替案を考えたりしてきた。

令和6年度以降も会員の参画意識を高めつつ、充実・継続していけるように内容を吟味精査して、活発な活動を推進していきたいと考えている。

4 おわりに

子どもたちには、藤浪中学校を支えてくださっている方々に感謝するとともに、伝統ある藤浪中学校で学ぶことに喜びを感じ、未来に向かって力強く羽ばたいてほしいと願っている。

本研究を通して、今まで行われてきた活動は大変意義のあるものばかりであることを改めて感じた。しかし、P T A役員の皆様に負担をかけてきているのも事実で、無理なく学校を支えていけるP T A組織を構築していく必要がある。その中で、地域社会との緊密な連携を築き、「未来に生きる子どもたちを地域総がかりで育てる」という共通理念のもと、学校、家庭、地域が連携・協働して、子どもたちの健やかな成長を見守っていきたい。